

# 柳之御所遺跡(岩手県西磐井郡平泉町)

ここが柳之御所遺跡/エミシ(蝦夷)の末裔である奥州藤原氏の政務の場であった政庁・平泉館跡に比定されている



大型の四面庇建物跡や庭・広場・高床式倉庫・工房などの跡が見つっていると云う



## 柳之御所遺跡

やなぎのごしょいせき

Yanaginogosho Site 柳之御所遗址  
야나기노고쇼 유적



この遺跡は、平安時代末(12世紀)の居館跡で、  
歴史書『吾妻鏡』に記載される「平泉館」に比定  
され、奥州藤原氏の政務の場と考えられている。  
南西側の低地は猫間が淵と呼ばれている。

継続的な発掘調査によって、堀・園池・掘立柱  
建物・便所などの遺構、京都や海外との交流を示す  
土器や陶磁器などの遺物が多数発見されている。

わが国の北方領域に展開した政治・行政上の  
拠点を示す遺存状態の良好な遺跡として、平泉の  
文化遺産の中でもとくに重要である。

指定名称：史跡 柳之御所・平泉遺跡群  
指定年月日：平成9年3月5日（追加指定：平成16年9月30日ほか）

This is the late Heian period (12th century) ruin of the  
building complex which belonged to the Ōshū Fujiwara family.  
The complex was called "Hiraizumi no Tachi." It appeared in  
a period historical record and was used for the family's  
official ceremonies or political affairs. Features of the  
buildings and moats were excavated along with various  
historically significant artifacts that proved active  
relations between this area and Kyoto or even to places  
overseas during that time. It is particularly important  
among the cultural heritage of the Hiraizumi region because  
the ruin was the center of the political and administrative  
activities of northern Japan at that time.

(Date of designation: March 5, 1997)

本遗址是平安时代末期(12世纪)的宅邸遗址,是历史书上记载的  
“平泉馆”——奥州藤原氏执行政务的场所。此处发掘出了城壕、  
古建筑等遗迹以及反映其与京都及海外交流的各种古物。

柳之御所遗址作为向日本北方开展的政治据点,在平泉文化遗  
产中占有特别重要的地位。

「入口」から⑤ 堀→⑥ 厩→⑦ 付属建物→⑧ 廊下状建物→⑪ 中心建物→⑩ 園池→⑭ 高床建物→⑬ 井戸→⑮ 汚物廃棄穴→⑰ 竪穴建物→⑯ 大型建物→④ 堀→② 橋→③ 道路へと進んでみよう



柳之御所史跡公園見学パンフレットより



柳之御所史跡公園見学パンフレットより

⑤ 塀

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



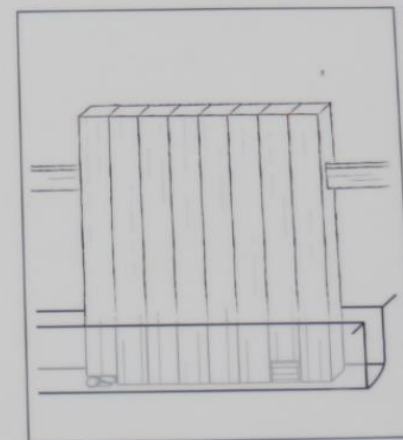
# へい 塀 Fences

柳之御所遺跡には、建物や園池などの空間を区画する塀がいくつかあります。四方を区画するものは、見つかっていません。<sup>いたべい</sup>板塀が多いですが、なかには角材を隙間なく並べた塀もあり、いくつかの種類があることがわかっています。

Researchers discovered the remains of wooden fences that had divided the site into several zones.



絵巻にみる塀跡



板塀模式図



塀

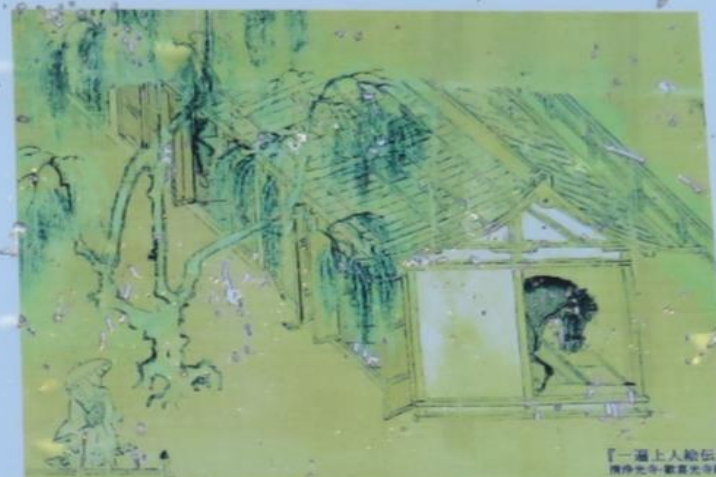
⑥ 厩



# うまや 厩 Stables

中心建物に付属する建物のひとつです。この建物は、柱を地面に直接立てる掘立柱建物ですが、中心建物に比べて柱の並び方に統一性がなく、また、建物の構造からも、馬をつなげておく厩と考えています。

As the pillar holes were not arranged regularly in contrast to the main buildings, it is possible that this building was used for stables.



絵巻にみる厩



厩想像イメージ



⑦ 付属建物



付属建物は他にも何ヶ所か復元表示されている

## ふぞくたてもの 付属建物 Subordinate Buildings

中心建物を補助した役割を持つと考えられる建物が、付属建物です。これらは、儀式の際に食事の準備をする<sup>くりや</sup>厨や、同行した家来たちがつめている建物などにあたと想定しています。

ここでは、発掘によって明らかになった柱の位置と太さを示し、建物の内部と外側の広がりを見分けて表現しています。実際に出土した柱材の多くが栗材だったため、柱は栗材を用いて表示しました。付属建物は、中心建物に比べると柱の太さや間隔が小さいことから、小規模な建物だったことがわかります。

The buildings named "Subordinate Buildings" are thought that were played the supplementary role of the main buildings that were located at the central part of the site. These buildings are thought to have been used as a kitchen for rituals and ceremonies and also a waiting room for servants whose masters were attending the ceremonies.



付属建物の位置



付属建物

別の角度から見たところ



⑧ 廊下状建物



ろうかじょう たてもの  
**廊下状の建物**  
Corridor (a style of aristocratic building)

この建物は、1間幅の間隔をもった列が続くことから、建物どうしをつなぐ廊下に似た建物であったと考えられます。廊下によってつながっていた、建物群があったのかもしれませんが。

These remains indicate that there may have been an aristocratic mansion connected by isles.

この建物は中心建物とは異なる時期のため、表示方法を変えています。



発掘調査時の図面



絵巻にみる建物

⑪ 中心建物



ちゅうしん たてもの  
中心建物

The Main Buildings

遺跡内のこの周辺は、大型の建物が集中しています。これらの建物は規模が大きいことや、池や広場に面していることから、<sup>ひらいずみのたち</sup>平泉館の中心施設と考えられます。西の建物は東<sup>ひさし</sup>西約11m、南北約14mの大きさで、広い庇をもち、特に格式の高い建物と推定されます。東の建物は、南北の長さが25mもある長大な建物跡です。この2棟の建物と池、広場などを含めた一帯が、儀式に使用された空間と考えられます。

Several large buildings were found around the pond garden within the site. Because of their magnificent scale and location, they were believed to have been *Hiraizumi-no-tachi's* core facilities. The western main building was approximately 11 meters east to west and approximately 14 meters north to south with wide eaves, and is presumed to have been the most prestigious building. The eastern main building was rather long, measuring 25 meters north to south. The area including these two buildings and the pond garden was used for ceremonies of the Oshu Fujiwara clan.



西の建物 復元イメージ West Building



東の建物 復元イメージ East Building

左手の砂利敷きの部分が「西の建物」、右手の砂利敷きの部分が「東の建物」

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)





⑩ 園池/平安時代末期に作庭されたと推定されている浄土庭園風の池泉回遊式庭園が復元されている

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)

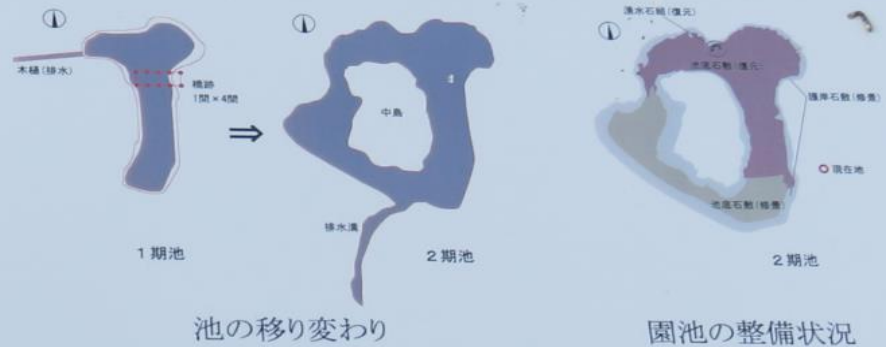


# えんち 園池 Pond

きんけいさん

金鷄山を向こうに、中心建物や庭に面して池が見つかりました。池は新旧2時期（1・2期）あり、新しい方の池を復元しています。導水路が見つからず、池の水は湧水や雨水などを利用したと考えられます。復元した池は、発掘された池に盛土をして再現したもので、範囲を推定した部分は石の敷き方を変えて表しています。

Two phases of pond, one older and one newer, have been identified. The front of main buildings and the pond garden faced toward Mt. Kinkeisan in the west. The newer pond has been restored. No aqueduct was found, suggests that the pond was spring-fed and/or filled with rainwater. The restored pond was recreated on the original pond covered with a protective layer, and the bottom of presumed area of the restored pond is paved with smaller stones.



⑬ 井戸/柳之御所遺跡のエリアからは64基もの井戸跡が見つかっていると云う



# いど 井戸

Wells

平成21年(2009)までに、64基の井戸跡が見つかっています。中には、深さが5mをこえるものもありました。井戸からは、木製品の他に、陶磁器や印章など、貴重な遺物も出土しています。

Sixty-four remains of well have been discovered thus far, including some over five meters deep. Excavation of these wells has produced valuable artifacts, such as wooden objects, pottery and ceramics, and a bronze seal.



発掘された井戸跡



出土したかわらけや木製品

こんな塩梅



⑭ 高床建物



# そうこふう たてもの 倉庫風の建物

“Takaya” Storehouse

柱の配置から、高床構造と推定できる建物で、倉庫の跡と考えられます。同様の建物は観自在王院跡の南側でも見つかっており、『吾妻鏡』に記載される「高屋」と想定されます。

From the layout of the column holes, this is considered to be the remains of a raised-floor storehouse. This is assumed to be the “Takaya” site described in the historical chronicle Azumakagami, of the Kamakura Period.

この建物は中心建物とは異なる時期のため、表示方法を変えています。



柳之御所遺跡から見つかった建物跡



復元された古代の倉庫(茨城県平沢官衙遺跡)

⑮ 汚物廃棄穴/背後は付属建物





おぶつはいきあな  
汚物廃棄穴

Human waste disposal pit

ウリ科種子や寄生虫卵、トイレット  
ペーパーにあたる「ちゅう木」が多量  
に見つかった穴を、汚物廃棄穴と呼ん  
でいます。これは、容器を使い<sup>はいせつ</sup>排泄し  
た後に、ふん尿を一時的に取りまとめ  
た穴と推定されます。

This pit was used for disposal of human waste. Archeological surveys revealed many cucurbitaceous seeds, parasite eggs and chu-gi scrapers, which were made of Japanese cedar and used as a toilet paper. This pit was not an actual latrine, but is assumed to have been used as a temporary disposal pit for human waste.



汚物廃棄穴



出土したちゅう木

これは園池の近くにある廃棄穴(井戸)



# はいきあな 廃棄穴 (井戸)

Disposal pit (well)

井戸として使用しなくなった後に、不要となったものを捨てた穴です。これらの穴からは、たくさんの種類の遺物が多量に出土し、当時の様子を知る手がかりになっています。この井戸跡は、深さが約3.5mあり、建物の部材がまとめて廃棄されていました。

This is a remain of an abandoned well that was used as a disposal pit. A variety of artifacts have been excavated from this type of pits.

この井戸跡では実際には井戸枠は見つかりませんが、遺跡内からは井戸枠をもったものも見つかりました。



遺物の出土状況



井戸枠のある井戸跡

⑰ 竪穴建物

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



たてあなたてもの  
**竪穴建物** Pit Building

この建物は、東西が7m、南北が8mの竪穴の床面に柱を立てている構造で、北側と東側には張り出しがあります。かわらけが大量に折り重なって出土していることや、中心建物に近いことから、儀式的の道具を納めていた倉庫とも想定される建物です。

This facility had been used for storing ceremonial implements.



竪穴建物



出土したかわらけ

付属建物

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



別の角度から見たところ



廃棄穴(井戸)





はいきあな

# 廃棄穴 (井戸)

Disposal pit (well)

井戸として使用しなくなった後に不要となったものを捨てた穴です。この穴には、宴会儀礼などで使用された大量の土器（「かわらけ」）がまとめて廃棄されていました。

Following use as a well, this pit was used for disposal. Excavation of the pit revealed a large amount of the earthenware known as Kawarake, which was used in feasts and rituals.



廃棄穴



出土した「かわらけ」

⑩ 大型建物



おおがた たてもの  
**大型の建物**  
The Largest Building

東西が20m、南北が18mもある大型の建物です。平泉で見つかっている当時の建物の中で、最も広い面積を持ちます。建物の内側にも柱の列がある、<sup>そうばしら</sup>総柱の構造を持つ建物と考えられます。

There remains measure 20 meters east to west and 18 meters north to south, the largest 12<sup>th</sup> century building excavated in Hiraizumi.

この建物は中心建物とは異なる時期のため、表示方法を変えています。



発掘調査時の大型の建物



建物の位置と広さ

別の角度から見たところ



汚物廃棄穴群



# おぶつはい きあなぐん 汚物廃棄穴群 Waste disposal pits

この周囲には、ふん尿などを捨てたと考えられる汚物廃棄穴が40基ほど、集中して見つかっています。これらは中心建物付近の汚物廃棄穴から汚物を運び、最終的に廃棄した穴と想定されます。

40 human waste disposal pits were excavated in this area. These pits are assumed to have been used as a final disposal area for excreta gathered from other temporary pits around the main building.



汚物廃棄穴群



汚物廃棄穴の分布

さて、この方向に無量光院(12世紀末に三代藤原秀衡によって建立された寺院)があるようだ/平泉館と無量光院を結ぶ道路があったと云う



柳之御所遺跡は、北西方向の山上にある金色堂を望むように造営されたと云われる

むりょうこういん 無量光院への道 The Path to Muryoko-in

無量光院は、藤原秀衡によって12世紀末に建立された寺院で、低地である猫間が淵遺跡をはさんで、柳之御所遺跡の西側に接しています。現在でも、無量光院跡の方向から、柳之御所遺跡に向かって通路状の高まりが確認できます。また、この高まりにつながる低地からは、発掘調査によって、橋状の施設が見つかっています。これらのことから、当時は、平泉館と無量光院を結ぶ道路があったと考えられています。政治の拠点である平泉館と寺院である無量光院が、密接に関係しながら機能していたことが明らかになっています。

Muryoko-in is a remain of the Buddhist temple that was constructed by Fujiwara Hidehira at the end of the 12th century. It is located on the west side of the Yanaginogosho Site. A swamp known as Nekogamafuchi divides the two areas. Archeological surveys have revealed holes for bridge piers that are extended from the direction of Muryoko-in to the Yanaginogosho Site. Based on the above, it is considered that a path existed to connect the Hiraizumi no Tachi government office and Muryoko-in. It is obvious that the Hiraizumi no Tachi government office, as a centre of politics, and Muryouko-in, as a Buddhist temple, functioned in close relation to one another.



無量光院跡の位置図



通路跡と考えられる張出しと橋状の施設



④ 堀/柳之御所遺跡は大規模な堀で区画されていたらしい

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



柳之御所遺跡は、猫間が淵と北上川との間の台地に、沼地と川とを堀に見立てた城郭のように造営されている

## ほり 堀 Moat

大規模な堀で区画されたすがたは柳之御所遺跡の大きな特徴です。内と外の平行する2本の水のない空堀が見つっています。2本の堀は時期が異なり、併存していたわけではありません。遺跡の南側では内側の堀が新しく、三代秀衡の頃はこの堀に囲まれていたと考え、一部を復元しました。堀は延長500mもあり、全体像の解明はこれからです。

内側の堀は最大で幅14m、深さ4mもあります。堀には橋が架けられ、遺跡の外の道とつながっていました。

There are two moats surrounding the center of the site. The inner moat is 14-meter-wide at most and 4-meter-depth. The bridges were built over these moats, and connected to the roads outside of the site. The archeological investigation figured out that these moats were about 500-meter-long and the research of these moats has just started to find out its whole picture.



外側の堀跡と内側の堀跡(東方向から)



内側の堀跡(現在地から)

② 橋



# はし 橋 Bridge

堀には橋がかけられていました。この地点を含めて、現在までに3か所が確認されています。この他にも無量光院へと結ぶ地点など、橋の存在が予想される場所もあります。堀からは橋の部材と考えられる角材が出土しています。

There were three bridges stretching over the moat. The remains of pillar holes in which were buried parts of bridge pillars were discovered.



橋跡



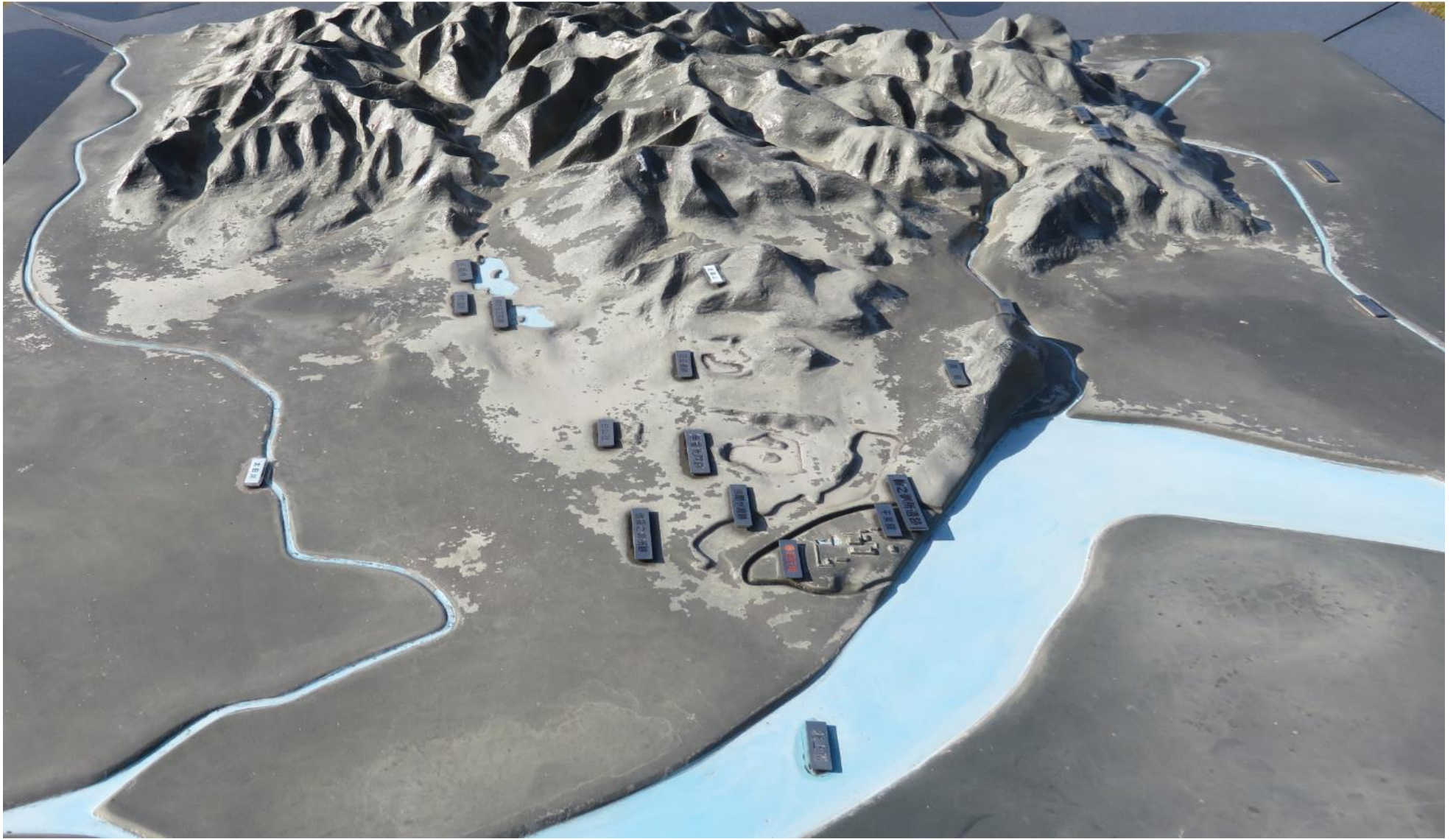
遺跡内の橋の位置

右手を見ると「地形模型」が見える



こんな塩梅





その左手に説明板があった





# どうろあと 道路跡

Road

平行した2本の溝跡を、道路の側溝と考えました。幅は10～12mほどで、遺跡の南側では全長50m以上にわたり見つかっています。また、この道路の南端には堀にかかると橋があり、その線を延長すると、町内で発掘されている道路とつながると考えられます。

The remains of a road are indicated by two parallel gutters. This road extended beyond the moat via a bridge.



遺跡の南側の道路



北側にある道路

なお、柳之御所遺跡の南側には藤原秀衡の日常の居所であった云う伽羅御所跡が接しているらしい

## きやらのごしょあと 加羅御所跡への道 みち The Path to Kyaranogosyo Ato

柳之御所遺跡(平泉館)の南側には、低地である猫間が淵遺跡をは  
さんで、きやらのごしょあと 加羅御所跡が接しています。この遺跡は歴史書『あづまかがみ吾妻鏡』  
の中で、藤原秀衡の日常の居所として記述されている「からのごしょ加羅御所」の  
推定地となっています。

2つの遺跡は堀や低地によって区画されていますが、この場所  
では堀をまたぐ橋跡が見つかっています。秀衡の時代には、政治の場  
である平泉館と、ひらいずみのたち 生活の場である加羅御所とを、橋や道路で結んで  
いたと考えられます。

The Kyaragoshō Ato is south of the Yanaginogoshō Site. This is assumed to have been the location of the Karagoshō Ato that was described as a residence of Fujiwara Hidehira in the historical chronicle Azumakagami, from the Kamakura Period.

Both the Yanaginogoshō Site and Kyaragoshō Ato are subdivided by moats and swamps called Nekomagafuchi, and excavation has revealed remains of a bridge connecting the two palaces. It is assumed that during the period of Fujiwara Hidehira's rule, the Hiraizumi no Tachi government office and the Karagoshō Ato residence were connected by bridges and paths.

\*Yanaginogoshō Site is assumed to be the "Hiraizumi no Tachi" described in the historical chronicle, Azumakagami.



伽羅之御所跡の位置図



柳之御所遺跡と伽羅御所跡を結ぶ橋跡

参考ホームページ

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0909/>

[http://www.do-be.jp/hiraizumi/yanaginogosho\\_kvaranogosho.html](http://www.do-be.jp/hiraizumi/yanaginogosho_kvaranogosho.html)

<http://kazahana.holy.jp/yanaginogosho.html>

<https://www.voritomo-japan.com/hiraizumi/yanaginogosho.html>

<https://www.travel.co.jp/guide/article/24641/>

<http://www.takakurashoten.sakura.ne.jp/castle/touhoku/yanaginogosho.htm>

<http://castle.sunnyday.jp/photo4/yanaginogosyo.html>

<https://sites.google.com/a/onodenkan.net/lie-dao-cheng-zhi-ji-xing/van-shou-xianno-cheng-ji/liu-zhi-yu-suo>

[https://kamakura8.blogspot.com/2015/05/blog-post\\_87.html](https://kamakura8.blogspot.com/2015/05/blog-post_87.html)

